

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしやかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
（だい き だい ねん だい かい だい にち
第9期 第1年 第3回 第2日）
議事録

1 日時 2012（平成24）年11月18日（日）午後2時～5時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

（1）代表者 21人

うー ちゆん おう ゆうしん きよ かきん わん びん あん よんいる ちえ きん ぼく ちやん ほ、
なかむら ジュ デイス、けお ぼ さアト ラツア ミチャ ン、ガン リョ ンイ ン、
なかだ しり わん、ぐ えん ごく ばお りん、せぬー じよ あ きむ やなぎさわ あん な、
ころん つい かる、その だ いづみ べあ とりす、おいで おり えつ た、
えど もん ど だん かん、しゃ ひん せる かん、しふ けん ぶら ンど ン、
チャート デビト

（2）事務局

よこや ましつちやう さとう たんとう かつちやう まつじ たんとう かつちやう おおた かつちやう ほき やぎ かつちやう ほき
横山室長、佐藤担当課長、松井担当課長、大田課長補佐、八木課長補佐、
むかい たんとう かつちやう おだぎ り たんとう かつちやう ゆかわ しゆにん にしぐち せんもん ちやうさいん
向井担当係長、小田切担当係長、湯川主任、西口専門調査員

4 傍聴者 9人

5 会議次第（公開）

- （1）開会のあいさつ
- （2）事務局説明
- （3）議事
- （4）事務連絡

ぜんたいかい
【全体会】

わん びん いん ちやう かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしやかいぎ ねん どの だい かい だい にち かい かい
王平委員長「川崎市外国人市民代表者会議2012年度第3回第2日を開会する。
ぼう ちやうしや みな ぼう ちやうしや じゆん しゆ じ こウ まも
傍聴者の皆さんは傍聴者遵守事項を守っていただきたい。本日はシャルマ委員、
やん いん さる ざい おい いん こん いん けつ せき れん らく けつ せき
楊委員、サルヴィオ委員、孔委員から欠席の連絡があった。今何人出席してい
るか。」

じむ きよ く む かい かつちやう げん ざい めい しゆ つせき
事務局向井係長「現在20名出席している。」

わん びん いん ちやう きよ う に ついて はい ふ しりやう かく にん ねが
王平委員長「今日の日程と配付資料の確認をお願いする。」

（事務局向井係長が日程と配布資料について説明。）

わん びん いん ちやう つぎ ぜん かい かい ぎ の ま と め の せつ めい ねが
王平委員長「次に前回会議のまとめの説明をお願いする。」

（事務局西口専門調査員が資料1に基づき前回会議のまとめを報告。）

わん びん いん ちやう ぎ じ う つ オー ぶ ん かい ぎ に ついて わた し ほう ぐ
王平委員長「では議事に移る。オープン会議について私が報告する。」

（王平委員長が資料2に基づき役割分担、配布物と通訳、広報、当日の流れについ
て説明。本日の部会で分科会のテーマを決めるよう依頼。交流パーティーの

会場準備に呉委員が加わった。)

朴委員「正副委員長が各部会に交代で出席することになっているが、副委員長が今日欠席している。委員長は両部会に出席するのか。」

王平委員長「本日私が2つの部会に半分ずつ出席する。では、部会審議に入る。」

【社会生活部会】

チャート部会長「社会生活部会を開会する。まず前回のまとめについて意見を。」

コロンツイ委員「前回、窓口対応のところで住民票を英語で発行してほしいといったが、記録がない。」

事務局湯川主任「その意見は前々回に話されたことなので前回会議の資料1『前回のまとめ』に記録されている。」

チャート部会長「ほかの質問、補足があれば。(なし)オープン会議に移りたい。

まず、タイムキーパー、記録をやりたい人がいるか。」

シャヒン委員「私は、一時帰国するのでオープン会議に参加できなくなった。」

呉委員「タイムキーパーと記録をする人は、同じ人だと難しいのでは。」

チャート部会長「タイムキーパーと記録は別にする。記録は詳しい内容ではなくて、発言のテーマぐらいを書けばよい。安さん、手書きはきれいか。」

安委員「全然。私に集中してきたな。」

チャート部会長「安さんをお願いします。タイムキーパーは重要だが難しくはない。」

柳澤委員「2分といっても、5分もかかる話をする人がいるので、止めるのは大変。」

チャート部会長「その場合は司会者の私が止める。柳澤さんはどうか。」

柳澤委員「はい。では、ちゃんと止めてくださいね。」

チャート部会長「分科会のテーマは数を絞ったほうが良い。何か意見はあるか。」

コロンツイ委員「大きなテーマを1つか2つがよいと思う。」

安委員「外国人登録証から在留カードにかわり、以前は市から切りかえの案内が来ていたが、川崎市は今回切りかえの案内が来ない。都道府県によって、案内が来るところと来ないところがあるようだ。川崎市も切りかえの案内を出してほしいと提言したい。カードの更新をしないと罰則規定がある。」

チャート部会長「提言としては遅い。オープン会議で、お知らせできると良い。」

柳澤委員「ニューズレターにも情報を載せるとよい。」

安委員「特に心配なのは、子ども。16歳からカードを持つようになるが、そういう意識が全くない。そういう意味でも案内を出してもらったほうが良い。」

コロンツイ委員「外国人登録証はその有効期限までは有効なのか。」

チャート部会長「外国人登録証にある有効期限は無関係。」

コロンツイ委員「私が、最初に区役所で聞いたのと違う情報。知らせた方がよい。」

チャート部会長「事務局に確認をお願いします。正しい情報をオープン会議で伝えることにする。オープン会議で情報伝達のテーマはどうか。情報が欲しいけど届かない、どのような方法がよいかについて、参加者から聞きたい。」

許委員「私は地域活動参加。日本の一般の方にも町内会とか、何をやっているか、

外国人と一緒に活動したほうがいいのか、意見を聞きたい。」

吳委員「オープン会議は、外国人だけでなく、日本人も来るのか。」

許委員「日本人も結構いる。」

チャート部会長「誰でも参加できる。」

シャヒン委員「前回のオープン会議の参加者の数は、どのくらいだったか。」

事務局湯川主任「去年は180人。」

チャート部会長「前は川崎市の外国人全員に郵送で知らせたので、最多数。」

柳澤委員「分科会の時間は30分。最初の10分は、みんな手を挙げるのを遠慮して

いて、その後だんだん意見が出てくる。テーマは2つぐらいがよい。」

許委員「社会生活分科会には中野教授が参加するが、専門分野を知りたい。」

事務局湯川主任「法学部の教授で、フランスの移民政策が専門と聞いている。」

チャート部会長「ほかに希望するテーマがなければ、情報伝達と地域活動への参加の

2テーマと、在留カードについてのお知らせとする。次に、窓口対応について、

新しい資料の紹介を事務局にお願いします。」

(事務局湯川主任が、資料4-2に基づき説明、(1)医療通訳については事務局向井係長が説明)

チャート部会長「医療通訳の制度について質問があれば。」

柳澤委員「聖マリアンナ病院でシスターが医療通訳のボランティアをしているのを

何回も見た。」

事務局向井係長「県の制度では、研修をパスした方だけが派遣される。通訳

ボランティアは、2012年の4月で170人ぐらいいる。」

許委員「救急医療情報センターは多言語対応しているのか。」

チャート部会長「ここで、相談窓口の参考資料の紹介をしてほしい。」

(事務局湯川主任が、参考資料「川崎市に住む外国人の皆さんへ」を説明)

事務局湯川主任「救急医療の情報はこの資料の1ページの5番にある。救急医療

情報センターというのは24時間体制で、日本語。」

許委員「医療通訳派遣システムは、川崎市の外国人にどのように知らせているのか。

どのようにして利用するのか。」

事務局向井係長「県のホームページに、載っている。川崎市はこれからホーム

ページ、チラシ等を含めてPRすることを検討している。この制度は、外国人

患者が申し込む制度ではなく、通訳が必要かどうかを病院が判断して、利用す

る制度なので、病院に対するPRが必要。しかし、外国人市民がこの制度を知

らなければ普及しないので、PRしていきたい。」

チャート部会長「外国人市民は制度の存在と対象病院はわかったほうがいい。」

シャヒン委員「救急車を呼んだときの問題や困った経験を聞きたい。」

柳澤委員「ロシアと違い日本では救急車に医者が乗らない。5年前は心臓

マッサージもできなかった。ロシアでは出産のときに救急車を呼ぶが、日本

では呼んではいけない。すごい文化の違い。」

シャヒン委員「友達が救急車を呼んだが、電話でどこの病院に行きたいか聞かれて

答えられなかった。その話で10分15分時間を無駄にして、その後やっと

病院に運んでくれたらしい。私も、どこの病院に行けばいいかわからな

い。」

事務局向井係長「いつも行っている病院の方が、より適切な処置ができるので聞いたのだと思う。病院がわからなければ搬送しないということではない。」

許委員「数年前、私の息子が夜9時過ぎに家具に頭をぶつけて、血がすごく出た。川崎市のガイドブックを調べて、夜間救急患者のセンターに主人が電話した。主人は日本人で言葉が通じるけど、もし両親どちらも外国人で、日本語もうまくない場合にどう対応するか問題。結局、そのとき受けられる病院は聖マリアンナ病院しかなく、家から自分で行かないといけなかった。もし、保護者2人ともが外国人で、日本語がうまくなくて、さらに車を持っていなかったら本当に大変。電話で応急手順を教えてくれたが、医療通訳派遣システムがあっても、緊急の場合、医療機関や市はどういう対応をするのか。それを、ここで話し合いたい。」

2つ目は、識字学級の人から聞いた話だが、若い家庭の主婦で、ご主人も外国人で、2人とも日本語はそんなに上手じゃない。最近ご主人が風邪を引いたが、言葉で症状をどう表現すればいいのかわからないため、病院に行けないという話だった。さらにこの2人は新婚で、日本での出産が怖いようだった。言葉が通じないと、こちらでどう出産するか、これも話を聞いて痛感した。」

呉委員「日本では救急車をタクシーがわりに呼ぶ人がいたため、今は本当に救急車が必要か聞いて、判断した上で、明日病院に行ってもいいというアドバイスをすると聞いた。コミュニケーションがちゃんととれる場合はそれでもいい。外国人の場合は、コミュニケーションもとれない、なおかつ自分は不安で来てほしいとなると、余計パニックになる。緊急の場合は、一層サポートが必要。」

ガン委員「『外国人のみなさんへ』は、内容で窓口が分類されているが、区役所や市役所には総合窓口があるのか。」

事務局湯川主任「4ページの問い合わせ先電話番号一覧は各区役所の代表の番号。そこで例えば、子どもの学校のことと言うと、担当の部署につながる。」

呉委員「日本は個人開業医がたくさんいるので、逆に気軽に行けると感じる。中国だと総合病院が多いので、行くと人が多くてシステムがわからない。」

柳澤委員「日本の医者は、麻酔医師以外の方は自分で自分の専門を決める。すぐれている医者もいるが個人医院は選んだほうがいい。医療については、自分の国と日本はすごいギャップがある。だから外国人には情報伝達が大事。医療システムだけじゃなくて、例えば結婚にしても、ロシアは、婚姻届を出したら2か月考える時間があり、2か月後に正式に夫婦になるが、日本は出した瞬間、もう夫婦。このように外国人の物の捉え方と、日本の文化は違うところが多いので、それがどういうふうに伝わればいいのかという問題。」

チャート部会長「まちづくりは、提案したガジェンダーさんが欠席のため、次回。最後の10分は、情報伝達を審議するための資料について話したい。」

コロナツィ委員「情報伝達のテーマの目的が聞きたい。」

チャート部会長「何のテーマを審議しても、このことは知られていないという結論が出てくる。だから、情報がより正確に外国人市民に伝えられるように何をしたらいいか、どういう工夫ができるか。市は頑張っていると思うが、明らかに不

十分なので、具体的にどうやって改善できるか、外国人市民の立場から、審議してアイディアを出したい。」

コロナチャート委員「一般的な制度の話か、それとも問題や情報を整理することか」
チャート部長「両方ある。制度全般の情報を伝えることは重要だが、何を伝えなければならぬかを行政側がわかっていない。日本人には普通の制度でも、外国人市民にとっては変わった制度なので説明してほしいという意見があれば、その情報を加えたほうがよい。手段と内容の両方あるが、一般的に、手段としてどう工夫したらよいかに重点を置きたい。」

コロナ委員「川崎で毎年出しているガイドブックを検討するとよい。」
事務局湯川主任「時間のかかるテーマで、まちづくりの後に、就職支援と提言取り組み評価と情報伝達と、3つのテーマが残っている。審議順はどうするか。」

チャート部長「では、時間がかかるテーマとして、次に情報伝達を審議したらいいと思う人は手を挙げてほしい。(挙手多数)」

ガン委員「情報伝達というのは、情報伝達の手段のことか。」

チャート部長「基本的にそう。コロナ委員さんが言ったのは『かわさき生活ガイド』。ここにはほとんどの情報が入っている。ただ、知らない情報もあるので、どうやって効率的にみんなに伝えるか。」

柳澤委員「インターネット上に自分の質問を書き込んで、知っている人が回答するというのがある。それを市のホームページにも設けるのはどうか。日本人市民も利用できるし、外国人市民が質問をすれば、日本人が易しい日本語で答えたり、自分の母語で質問を載せれば、その言葉ができる人が答えを書いてくれることはできるのではないか。」

呉委員「インターネットを使っていない人にどうやって伝えるかは、別に議論する必要はあるが、ネットを使える人に対して、今は、医療のことは医療サイトで調べるなど、カテゴリーごとにサービスを調べる形だが、総合的な検索サイトで、地域別とかサービスの項目別とかで調べることができればよい。

また、母国と日本との違いとして、例えば、中国では銀行と郵便局が土日にも営業するのが当たり前。日本は当たり前のように休むし、働いている人は休みを取らない限り行けない。外国人に発信するときには、日本と他の国とで違うところも情報として伝える工夫が必要。」

許委員「『かわさき生活ガイド』は結構役立つと思うが、どう配っているのか。」

コロナ委員「川崎に引っ越してきて住所変更のときに地図や「生活ガイド」をもらった。それは気にしない人もいるので、自分から知ろうとしない人には、どうしようもない。引っ越してきたらまず、一定の範囲内で、病院や図書館、スーパーの場所、銀行の営業時間など、自分と直接関係のあることを確認する。救急車の呼び方も調べる。区役所で登録するときにはいろんな資料をもらい、それを読んで、書いてないことは聞きに行く。これは両側から努力しないと。」

チャート部長「私は国民年金の後納制度は、知らせが来る前に年金事務局に行っ
て申し込んだ。このように積極的に調べる人もいるが、外国人でも日本人でも積極的にしない人を放っておくわけにはいかない。だから、消極的な人にも

必要な情報が伝わるような工夫も話したい。難しいが、改善できればと思う。」

呉委員「外国人登録をするときに、そのガイドブックを渡されたのか。」

コロンツィ委員「私は住所変更のときに川崎区役所でもらった。」

柳澤委員「引っ越したときには日本人ももらう。」

呉委員「私はもらっていない。例えば住民票の手続きなどのときに、確実に全員窓口でもらえるのなら、それも1つの方法。区の担当者がたまたま忘れたからもらえなかったのかはわからないが。」

シャビン委員「これからの問題を解決する方法はネットテクノロジー。私たちも、そのテクノロジーに注目すべき。情報伝達にも関係がある。」

チャート部会長「ネットで全ての問題は解決できないが、具体的な手段を提案したほうがいいので、ネットの工夫に集中する可能性もある。生活ガイドを176ページ全て読んだ人はいるか。」

コロンツィ委員「自分に必要なところは全て。」

チャート部会長「自分に必要なところをどうやって選んだか。」

コロンツィ委員「目次があるから。」

チャート部会長「目次を読む人は少ないし、その項目が必要かどうかさえわからない場合もある。イギリスでは年金と税金と健康保険は1つの制度。だから、私は税金と健康保険に登録すれば全て済んだと思っていた。誰も別だということをおしえてくれなかった。3年後、年金は別だと分かり、急いで区役所に行って登録した。それまで、年金は問題になることさえわからなかった。だから、聞くべきであることさえわからないことをどうやって聞かせるかは1つの問題。」

王平委員長「全ての情報を全ての人に伝えるのは難しいと思うが、ガイドや、ホームページの検索など、全ての情報を見やすくすることがベストでは。」

ガン委員「外国人とは、ビザを持っていない人も含むのか。」

チャート部会長「基本的にビザを持っていない人も含むべき。」

ガン委員「ビザを持たない人たちは、いろんなメディアを使う習慣は少ないと思う。そういった方も含めて方法を考えたほうが一番確実だと思う。」

チャート部会長「行政が正式に対象にするのは難しい。人権の立場から考えたら対象にするべきだが、どうするかは、NPOなどの範囲かもしれない。」

事務局湯川主任「現在は非正規滞在、ビザのない人たちは住民登録できない。今までは外国人登録があり、切替えるときに、区役所に来ることもあったので、情報を伝える手段があった。新しい制度で区役所に来るチャンスが減ったが、子どもが学校に通える制度など利用できる制度はあるので、その情報すら伝わらなくなってしまうという問題がある。」

チャート部会長「次回までに、どのくらい市が非正規滞在者を情報伝達の対象にしているか調べてほしい。皆さんは次回までに手段について考えてほしい。では、部会を閉会する。」

【福祉教育部会】

園田部会長「福祉教育部会を始める。前回の内容を確認する。」

(事務局西口専門調査員が資料1に基づき前回の内容を説明。)
園田部会長「私はオープン会議を欠席する。かわりにガジェンダー副委員長に、福祉教育部会の報告をしてもらうが、よいか。(異議なし)タイムキーパーと記録を決めたい。」

朴委員「王夕心委員を推薦する。」

王夕心委員「引き受ける。」

園田部会長「分科会のテーマだが、私は家庭教育の審議内容の報告と、その後扱うテーマについて、取り上げてはどうかと思うが、いかがか。」

エドモンド委員「去年のテーマが知りたい。」

事務局西口専門調査員「昨年は第8期の2年目だったので、提言案について意見を聞いた。第8期の1年目は部会のテーマごとに意見をもらう形で進めた。」

王平委員長「家庭教育と母語教育のほかにどのくらいテーマがあるのか。」

事務局西口専門調査員「全部で8つのテーマがあり、その中から時間のかかるテーマ3つを先に話し合うということが決まっている。」

朴委員「8つのテーマは全部子育ての問題。言葉がわからない、そのためにいじめの対象にされてしまうとか。もう1点が教育、しつけということ。」

園田部会長「子育てについて、参加者から意見を聞くということか。」

事務局佐藤課長「どういう意見が聞きたいかによって、参加者への聞き方がかわってくると思う。例えば子育てという広いテーマで、いろいろな意見をもらった後に、部会の中で、その意見をテーマごとに分けて、各テーマの審議の中で参考にするという方法もある。また、最初にテーマを限定して、皆さんに具体的な意見をもらい参考にするという方法もある。」

生出委員「今まで話し合ってきた家庭教育について意見を聞けばよいのでは。」

園田部会長「それだと報告がメインになる。参加者に意見を聞くことも大切。」

事務局西口専門調査員「分科会で使える時間は30分。仮に家庭教育の審議内容の紹介に5分使い、コメンテーターのコメントをもらう時間を5分取るとすると、残りは20分。重要な3つのテーマについて5分ずつ意見を聞き、残りの5分は3つのテーマ以外の意見を聞き、20分として進めてはどうか。」

園田部会長「その案がよいと思うがどうか。(異議なし)そのように進める。」

王平委員長「分科会では3つのテーマを出すということか。」

事務局西口専門調査員「3つのテーマにそれを加えて4つの区切りで5分ずつ。」

園田部会長「次の議題に移りたい。事務局から説明を。」

事務局西口専門調査員「皆さんからももらった教育委員会への質問の内容は幅が広く、母語教育や乳幼児の子育てなど別のテーマについての質問もあった。そこで、部会長と相談し、今回は家庭教育に関する質問に絞って教育委員会生涯学習推進課の片山振興係長に市の家庭教育についての取り組みについて説明していただく。他のテーマに関する質問は、そのテーマの審議のときに改めて事務局で調べるか、担当者に来てもらうことにしたい。」

片山係長「よろしくお願ひします。資料3-2に沿って説明したい。」

(片山係長が資料3-2に基づき、川崎市の家庭教育事業について説明。)

園田部会長「ありがとうございます。今の内容に質問はあるか。」

崔委員「PTAの家庭地域教育学級は外国人の参加者は多いのか。」

片山係長「外国人の参加者数はわからないが、学校に来ているPTA会員の人はみんな声をかけているはず。場所によっては、例えばインド人の保護者にはほかの保護者がインド料理を教えてもらうような講座もある。」

ケオバサート委員「保育園と幼稚園は、どのような教育に入るのか。」

片山係長「幼稚園は学校教育だが、保育園は家庭教育や社会教育にも関わるかもしれない。どちらに入るのかは正確にはわからない。」

園田部会長「PTA家庭教育学級の情報は、学校から日本語で出しているのか。外国人が学校からの手紙が読めないことが問題だが、教育委員会では、外国人のために、何か配慮をしているのか。」

片山係長「学校から出す文書はふりがなが振ってあるものが多いと思う。ただ、もとの文章が難しいと、ふりがながあってもわからない場合も多いので、教育委員会ではやさしい日本語について学ぶ研修会を開き、学習を始めたところ。PTAの家庭教育学級は、PTAの会員がお知らせを作るが、やさしい日本語の話はしていない。今後PTAの集まりなどで話す必要があると思う。」

園田部会長「こうした手紙を英語で出すことについてはどう思うか。」

片山係長「英語ができる保護者がいれば、文章をつくってもらえるかもしれない。」

園田部会長「外国語のできる保護者が学校にいない場合、代表者会議を含め川崎市に住んでいる様々な国籍の人たちのネットワークを作っていくことも必要。」

仲田委員「タイにはPTAはない。初めて子どもが幼稚園や学校に入ったとき、PTAのことは全然わからなかった。でもこれは必要な活動だと思う。」

片山係長「PTAは子どもが学校に入ったら、入るものという感じになっていて、そもそも強制的にやるものなのか、という意見もある。今後は入学者説明会でもっとPTAについて、わかりやすく説明していこうとしている。そのための説明資料を、PTAの役員と相談しながらつくっている。」

崔委員「PTAの役員の中に、外国籍の人はいるか。いるなら、もっと外国人保護者に向けて働きかけてくれるのではないか。」

片山係長「今そういったことは把握していない。」

朴委員「PTAのほかに保護者会という呼び方もあると聞いているが。」

片山係長「『PTA』が多いが『父母と先生の会』という所もあるようだ。」

ケオバサート委員「PTAは、保護者の義務か。」

片山係長「義務ではないが、大体の人が入っているので、参加しないと何か言われるかもしれないという気持ちで参加している人もいるかもしれない。」

王夕心委員「日本語が読めない外国人保護者を対象にした入学前のオリエンテーションはあるか。」

片山係長「高校の入学説明会は外国籍の方を集めてやったりしている。」

エドモンド委員「今年子どもが1年生になったが、PTAの説明はあった。」

グエン委員「携帯でもインターネットが使え。インターネットで調べれば、PTAについてたくさんの情報が出るので、学校で説明をする必要はない。」

セヌー委員「教育委員会の中で、外国人の児童生徒の問題や、日本人と一緒にになりにくいという問題はあったのか。」

片山係長「担当ではないので詳しくないが、日本語がわからなかったり、授業につ

いていけなかったりするので、放課後にそういう外国人の子どもたちを集めて勉強をサポートする事業をやったり、日本語について子どもたちが学ぶような事業をやっているというのを聞いている。」

セヌー委員「教育委員会の立場から、外国人の家庭教育のことでこうしたほうがよい、という意見はあるか。」

片山係長「学校からの文書が難しく、外国人の保護者が理解できない場合に、子どもが必要なものを持ってこない、忘れ物をする、家でも勉強を見てもらえない、という部分でサポートが必要かと思う。クラスの中で、この子はいつも忘れ物をする、勉強もついてこれられない、という感じになってしまう。保護者と子ども両方に対するサポートが必要ではないか。」

園田部会長「PTAの家庭教育学級のテーマは、日本の家族を対象としている問題が多い。これまで外国人のためのテーマで開かれたことはあるのか。」

片山係長「特に外国人の保護者を集めたものは見たことがない。先ほど外国人の子育て広場を紹介したが、5回くらい毎週集まって、子育ての悩みについて話し合ったり、講師の先生の話の話を聞いたり、自分の文化を紹介し合ったり、日本人もそこに交じって、いろいろな文化を理解し合おうという事業はあったと思う。」

園田部会長「各学校に必ず外国籍の方が1人、2人はいると思うが、PTAが外国人に注目し、何か活動しているか知りたい。PTAに対し、保護者がこういうテーマについて、学習しましょうという提案はできるのか。」

片山係長「PTAに意見があればぜひ。PTA役員に外国人が入れば、外国の人も含めて一緒に学ぶ場をつくらうという配慮ができていくと思う。」

園田部会長「保護者が積極的に学校のPTAに参加することは、問題解決に役立つ。しかしPTAの仕組みがわからないと参加できない。だから、小学校1年生の段階で、PTAについて、外国人にもわかりやすい説明があるとよい。」

片山係長「各学校のPTAに、そういう声かけをしていきたい。」

エドモンド委員「事前質問に対する回答は後で行うのか。」

事務局西口専門調査員「いただいた質問は、全て答えられるようにしたい。今回の会議では時間の制限があるので、家庭教育に絞って答えていただいた。」

朴委員「私の母は在日二世だったのがPTAを何とかやっていた。今は子育てを男女でやる時代だが、PTAで男性役員は増えているのか。」

片山係長「各学校のPTA会長は男性が多い。PTAは、平日の昼間に会合があることも多いので、自営業など時間の都合がつけやすい男性が参加しているようだ。保育園で両親どちらも働いているので保護者会を夜やることが多いが、半分以上の父親が参加しているのではないかと。働くお母さんが増えているので、夜に集まりお父さんも参加するという流れになってきている。」

仲田委員「私は多摩市民館の子育て広場に毎月参加しているが、参加者が少ない。チラシだけ置いてあっても、見ていなければ全然わからない。情報がもっと伝われば、外国人で参加したい人は多いと思う。」

中村委員「私、校外委員で1か月に1回、『おはようございます』と声掛けをしている。それは、PTAの活動か。」

片山係長「PTAの活動は、声掛けなどの活動をするグループ、PTA家庭教育

学級の企画を提案するグループ、PTAのお便りをつくったりするグループなど、いくつかのグループに分かれている。PTAに参加するとどこかのグループに入って活動する。最近、みんなが平等に参加できるように、1人必ず1つ役割を持って、年1回は参加するような仕組みにしているところも多い。」

園田部会長「ありがとうございます。」（片山係長退席）

事務局西口専門調査員「続いて資料3-3の説明をする。皆さんからの質問の中に、事務局の資料に関する質問があり、追加情報として資料を作った。」

（事務局西口専門調査員が資料3-3について説明。）

園田部会長「資料について質問はあるか。」

エドモンド委員「部活について、子どもたちが何かやりたいときに、毎回練習しないとレギュラーになれないのは問題。市から練習は基本的に週2回と決められないか。レギュラーに入れなくて、試合に出られないのは残念だと思う。」

園田部会長「うちの息子は3人とも部活に入っていて、高校1年生の子はバスケに今日も行っている。土日、祭日、夏休みもほとんど家にいない。最初はすごく抵抗があった。でも、部活に入るか入らないかは、子どもの選択。絶対入らないといけないということではない。友達の中にも入っていない子もいる。地域のクラブチームに入るという選択もある。」

エドモンド委員「クラブチームとは。」

園田部会長「学校と関係なくスポーツができる。学校でやれば、無料だが、学校のシステムが嫌なら、他の場所で学ぶこともできる。ただ、学校でやる限りは、その学校のルールには従わないといけない。」

エドモンド委員「では学校のルールは誰が決めたのか。」

園田部会長「学校によって違う。うちの子どもの場合は、木曜日だけ部活はなく、土日は試合。でも、子どもは試合に出たいから、そのために月曜日から金曜日まで練習して、やっと試合に出るのは、土日。」

エドモンド委員「子どもはそれできちんと勉強できているのか。」

園田部会長「勉強している。」

エドモンド委員「そのシステムで勉強が本当にできるのか。」

園田部会長「それぞれ子どもによって違うと思うが、上の子2人は勉強して、ちゃんと学校を卒業した。一人は来年専門学校を卒業する。」

シフケン委員「私の子どもは中1でバスケ部に入って、毎日、朝練、昼、あと土日は絶対練習がある。髪を切る時間も、歯医者さんに連れていく時間もない。ゴールデンウィークも毎日練習だったので、家族旅行ができない状況。部活の時間は勉強時間の3倍なので、たまに休ませて、勉強させている。休ませているから試合に出してもらえないが、日本の部活はそんなものだと思う。アメリカでは練習は週3回で、試合は土か日という感じ。何で日本はこういうことになっているのかわからないが、自分の意思でやることには、あまり文句を言いたくても、言えないかなと。」

園田部会長「子どもがやりたいと言えば、それを応援するのが保護者だと思う。」

ストップをかけるのも保護者。スポーツは学校の部活だけというわけではないので、お金は発生するが、別の選択肢もある。」

朴委員「オープン会議のことだが、司会をするガジエンダーさんに部会長から進め方

やこれまでの会議の内容についてメッセージなどを渡してもらえるとよい。」
事務局西口専門調査員「オープン会議の前に正副委員長、部会長で進行の打ち合わせ
があるので、そこでガジェンダーさんと園田さんの間で、進行について、きち
んと情報共有できるようにしたい。」

朴委員「部会長は日本での子育て経験も長いが、ガジェンダーさんはお子さんがまだ
小さいので、日本での子育ての状況についてガジェンダー副委員長にきちんと
と理解してもらおうよう、お願いしたい。」

園田部会長「私もできるだけ協力する。では、資料3-4の説明をお願いする。」
(事務局西口専門調査員が資料3-4について説明。)

園田部会長「家庭教育のまとめについて、この中で今まで話し合ってきた困っている
こと、解決方法があるが、この中でどれを提言にするか、どういうテーマに絞
っていくかについて1人ずつ意見を聞きたい。」

セヌー委員「資料の6番、親が学校のプリントを読めないという問題は、ルビを振る、
あるいは英語でできればいいと思う。せっかく情報があり、子どものためにな
るのに、保護者がわからなければ、役に立たない。」

王夕心委員「さまざまな文化を日本人の生徒に教えることが、相互理解を図るために
すごく必要。学校で自分の国のPR、異文化のPRができるとよい。」

朴委員「解決方法のB「子育てや教育に関する情報の提供」を一番前に押し出せば
いい。この中にはAからDの問題が入ってくると思う。」

シフケン委員「私もBに注目したい。家庭がしっかりしていれば、子どももしっか
りしてくる。親が日本語や日本の文化がわからなくて不安だと、それは子ども
にもうつるので、日本語・日本文化に慣れていない家庭を応援したい。例えば、
学校からのお知らせや重要なものをいろいろな言語でインターネットで流す、
あるいはこの会議で支援できるとよい。オープン会議のすばらしいところは、
代表者がいろいろな言語で、通訳できること。この会議を使って、日本語がで
きない親やその家庭を応援できるとよい。」

グエン委員「資料3-4の、解決方法に基づいてこれから提言するということか。」

事務局西口専門調査員「提言の形はこれまで、まずしてほしいことが書かれ、その
あと、なぜそれが必要なのかが書かれるという流れになっている。」

グエン委員「課題・困ったことのA、B、C、Dと、解決方法のA、B、C、Dは
対応しているのか。」

事務局西口専門調査員「対応はしていない。課題と解決方法が、それぞれ偶然4つの
グループに分けられたので、A、B、C、Dと自動的に記号をつけた。」

グエン委員「資料3-4の2ページのD「親が子どもの長期休暇に合わせて休みが
ほしい」は実現が難しい。親が自分の判断で休むか、仕事ばかりで時間がない
と言い訳しながら休むか、市がそれをどうやって支援するのか。」

崔委員「資料の中から何を提言するか選ぶのか、資料を参考に新しく作るのか。」

園田部会長「私たちが話し合ってきたことから提言に向けて絞る必要がある。」

崔委員「この問題と解決方法をまとめて提言をつくるのか。」

事務局西口専門調査員「会議の中で出た意見から、提言がつけられる。以前出した
意見は忘れてある部分もあるかと思うので、これまでの審議を一度ここでおさ
らいして、今日の説明を聞いて、新しい提案があるようなら出してもらい、ど

ういう提言の形にしていったほうがいいのか決めてから、次の母語教育の審議に移るといえるのはどうか。」

朴委員「教育福祉部会という名前なので、それに沿ったものであればよい。」

崔委員「解決方法はどれも重要。どれかを選ぶものではないと思うが、私は子育てや教育に関する情報の提供、が一番重要だと思う。」

朴委員「部会の名前に福祉が入っている理由は、不景気なので、シングルマザー、シングルファーザーが増えている。そこでどうしても子育ての問題が出てくる。私はBの「子育てや教育に関する情報の提供」が一番良いと思う。」

エドモンド委員「私は部活のシステムを上から変えてほしい。」

中村委員「私は、Bの⑤の子どもとの時間が少ない、という問題を提言に入れたい。」

園田部会長「ここで今決められないのであれば、次回の最初に決めたい。」

仲田委員「提言にする場合A、B、C、Dの中から1つしか提言できないのか。」

事務局西口専門調査員「提言はテーマごとにつくる。例えば保護者同士の交流と、多文化理解教育の充実は、テーマが違うので、別々に提言を作ることになる。

テーマを絞らないと提言をたくさん作ることになる。家庭教育は次回この資料で引き続き審議してはどうか。次回の母語教育について必要な資料や調べてほしいことがあれば、1週間以内に事務局宛てにメールで連絡してほしい。」

事務局佐藤課長「この年次報告の22ページに提言が載っているので、次回1月の会議までにそれを読んで提言の形を確認していただきたい。」

朴委員「提言の候補がまとまらなければ部会長に一任したい。」

園田部会長「了解した。では部会を閉会する。」

【全体会】

王平委員長「全体会を始める。部会報告をお願いします。」

[福祉教育部会]

園田部会長「今日は教育委員会の方に来ていただき、主に家庭教育について資料3-2の内容を説明してもらった。その後PTAの仕組みなど、それぞれの質問に答えてもらった。メンバーからの事前質問は内容が様々で、今日、全部答えが出なかった部分もあったが、それは後ほどできるだけ事務局で調べて答えてもらうことになった。今日は家庭教育のまとめと提言について決めたかったが、次回の会議で決めて、母語教育に入る予定。最終的に提言案が会議で決まらない場合は、私が案を出す。次回の会議に必要な資料は事務局にメールで連絡することになった。」

王平委員長「今の報告に質問や意見はあるか。」

柳澤委員「オープン会議のテーマは何になったか。」

園田部会長「テーマは家庭教育、母語教育、異文化交流とその他で5分ずつ。

コメンテーターとこれまでの審議の説明で10分を予定している。

タイムキーパーは、王夕心さんに決まった。」

[社会生活部会]

チャート部会長「オープン会議は、記録を安さん、タイムキーパーを柳澤さんが担当

する。テーマは、情報伝達と地域活動への参加についての意見を聞き、在留カードの切りかえ制度について、正確な情報を伝える予定。

今日は、窓口対応と通訳制度について話した。医療通訳制度があり、川崎市内の6つの病院が対象になっている。その病院で通訳が必要だと判断すれば通訳を依頼するので、外国人市民は制度の詳細がわからなくてもよい。しかし、制度の存在と対象の病院は知られていないようなので、これからそれを知らせることになっている。でも、緊急で救急車を呼ぶときには多言語対応はなく、救急車を呼ぶときにいろいろ質問されるので、その対応を改善できるか、日本と外国の医療制度の違いをどうやって知るかということが話された。

そして、まちづくりを審議する予定だったが、提案者のガジエンダー副委員長が欠席のため次回に回して、次のテーマとして情報伝達について話し合った。

情報伝達は どうやって情報を正確に外国人市民に伝えられるかという問題。市は「外国人の皆さんへ」などいろいろな資料を作っているが、代表者でも知らないことが多いので、どうやって知らせるか。例えば、インターネットを使ったり、市のページの中にヤブーの知恵袋のようなものを設けたり、川崎に転入した時に資料が確実に渡せるようすることと、最後に非正規滞在の外国人にどうやって情報を伝えるかについて話が出た。まちづくりと情報伝達は次回も審議を続けるつもり。」

王平委員長「報告について意見や質問はあるか。」

朴委員「私の得意とする地域福祉もまちづくりの一つ。できる限り協力したい。」

セヌー委員「情報伝達について、年に1回、新しく転入した外国人を対象に市内で説明会を開き、川崎市の取り組みについて紹介してはどうか。」

チャート部会長「その提案も審議の参考にしたい。」

生出委員「まちづくりはどのような提案か。」

チャート部会長「今日は審議していない。どうやって外資系の企業を川崎市に誘致して、生活に貢献してもらおうかという方法を審議する。」

柳澤委員「地域活動の話もしているが、それは町内会や自治会はどんな活動をしているか、どのように外国人がそこに参加するか、について話している。」

仲田委員「医療通訳についてだが、入院などのときに記入する書類は外国語ででているのか。私が手術を受けたときは、CTスキャンとかMRIの書類が全部日本語で、サインしなければならなくて、とても困った。」

チャート部会長「その話はしていないが通訳が必要になる重要な点だと思う。」

王平委員長「実行委員会の報告に入る。」

[各種実行委員会報告]

●ニューズレター編集委員会；No.47の記事レイアウト案について報告。お花見のおすすめスポットについて情報提供を依頼。

●市民祭り実行委員会；開催結果を報告。反省点として、テントの場所がわかりにくい、テント内企画がよかった、パレードの参加人数が少なかった、等の意見が出たことを報告。アンケートの協力を依頼。

セヌー委員「テントの場所がわかりにくく、行きにくかった。」

呉委員「クイズもすごくよかった。特にダンカンさんがとても上手だったが、その他のメンバーはどうやるのか知らなかった。事前にやり方を教えてほしい。」

グエン委員「民族衣装が注目を集めてよかったが、人数がもっと多い方がよい。」

王平委員長「パレードがとても寂しかった。来年はパレードだけでも全員参加してもらいたい。」

●多文化フェスタみぞのくち実行委員会；アンケートの提出を依頼。

[その他]

王平委員長「部会の報告は部会長がすることになっているが、傍聴者の声にもあるように、部会長がほかのメンバーに委任することはできないのか。」

事務局向井係長「検証したい。」

王平委員長「次回はオープン会議になる。これで第3回第2日の会議を閉会する。」